

平成31年度・令和元年度 学校経営方針（保護者対象）

人が育つ学校づくりをめざして

—学びがい、働きがいのある学校—

杉並区立高井戸第二小学校

校長 前田佐和子

I 学校経営の基本理念

コミュニティスクールとして保護者、地域の皆様に支えられ、地域の宝である子どもたちの健全育成に教職員一丸となって取り組んでまいりました。

再任用校長として、新たな一步を踏み出した私ですが、教職経験のすべてを生かし、高2小の子どもたちのために全力で学校経営に取り組みたいと考えています。どうぞ、改めてよろしくお願いいたします。

目指す学校経営の基本理念は、「学校は、人が育つところ」であることに変わりはありません。高井戸第二小学校の子どもも大人も一人一人が、よりよく成長を遂げる場にしていきたいと考えます。学びがい、働きがい、応援しがいのある学校を目指します。

《学びがいのある学校》

学校は子どもたちの健全育成のために存在しています。子ども自身がかけがえのない存在であることを自覚し、自尊感情や他者への思いやりをはぐくみながら、明日への夢が実を結ぶよう日々、磨き合う「学びがいのある学校」となるよう努力します。

一人一人が自己の成長を感じつつ、学校で学ぶことに喜びを見出しながら毎日楽しく登校し、今日も頑張ることができた自分に誇りを感じながら家路につく。そんな毎日を地道に積み重ねていく教育活動を実践します。それが子どもにとって「学びがいのある学校」です。

めざす児童像は「昨日より今日、今日より明日輝く子ども」です。

子どもたちが自ら具体的なめあてをもって、日々の学校生活を送れるよう、授業に、生活指導に取り組んでまいります。

児童像に迫るために、以下のことを大切にしていきたいと考えます。

- ・ 自分の成長が実感できること
「できなかったことができた」「昨日より少しわかってきた」
- ・ 最後までやりとげること
「むずかしかったけどやっとなんかできた。うれしい」「次は何に挑戦しようか」
- ・ 今日学んだことがしっかり身についていること

「集中してがんばった」「家で復習してみよう」

- ・ 明日が待ち遠しいこと
「明日は〇〇に挑戦しよう」「早く〇〇がやりたい」
- ・ 基本的な生活習慣が身についていること
「朝ご飯をしっかりと食べた」「明日の準備は完璧だ」
「ゲームやテレビより友達と外で遊ぶことが好き」

《働きがいのある学校》

「人が育つ」とは、子どもにだけ当てはまることではありません。子どもにとって「学びがいのある学校」にするためには、教職員一人一人が教育のプロとしての責任と自覚をもち、自らも教師として、職員としてよりよく職務を果たそうとする姿勢が大変重要であると考えます。教職員一人一人が、それぞれの立場、職責において「昨日よりも今日、よりよく仕事（授業）ができた」と職業人としての自己の成長を感じつつ、充実感を味わい、高井戸第二小の一員であることが誇れるような「働きがいのある学校」を目指します。

教職員一人一人が「昨日より今日、今日より明日、輝く人」となるために、日常業務の様々な分野で、常にOJTを意識し、様々な教育課題に全校で取り組んでいく過程で、自分自身を磨いていくことができると考えています。

担当する校務分掌においては、一人一人がリーダーです。「よりよく」の精神で、子どもたちのために明るく前向きに仕事に取り組み、授業力(仕事力)を伸ばそうと日々努力していきます。

《応援しがいのある学校》

本校は、地域の宝である子供たちの成長に責任をもちています。人権尊重と社会貢献の精神をはぐくみ、基礎的・基本的な学力の向上を図って、その個性と想像力を伸ばし、広く国際社会でたくましく生きる力を身につけさせることは、私たち教職員の責務です。

しかし、この目標は一人の力で達成できるものではありません。高井戸第二小の教職員が一丸となって、互いのよさを生かしながら全力で取り組むこと、さらに保護者や地域の皆様の力をお借りし、多くの大人の力を組織的に結集して、子どもたち一人一人を温かく見守り育てていく学校づくりを推進していきます。

子どもの成長を喜び合える学校・保護者・地域の関係を広げていきたいと考えています。

そのために、私たち教職員が、日々、子どものために最善を尽くし組織として取り組むことが、保護者や地域の皆様のさらなる信頼と多大な協力をいただくことにつながると確信しています。

II 目指す児童像

教育目標

本校では、「生きる力」の育成を目指し、教育目標を設定しています。

- たくましい子
- ◎ かしこい子
- にこやかな子

29年度、体力調査の結果は、全国・都それぞれの平均に届いていませんでしたが、29・30と2年間、重点目標を「たくましい子」として、校内研究教科を体育とし、児童の体力の向上を目指してきた結果、なんと6年生では男女とも区で第1位になるという結果が表れました。他の学年も着実に伸びています。

変化の激しい予測不能な未来を生き抜き、活力ある生活を支えるための基礎的な体力は必須です。研究の成果を生かした体育科授業の年間計画や運動の日常化をいかした環境整備は今後も大切にしていきます。

そして、31年度、目指すは確かな学力の更なる向上です。

杉並区の特定期間調査の結果を見ると、本校児童の学力は国語・算数ともにR1層は着実に減少し、全体としては国・都はもとより区平均を上回る結果となっています。

しかし、学び残しのあるR1層の児童は減少していますが、R2層・R3層の伸び悩みが見られます。また、細かく分析していくと、とくに国語科において、思考力・判断力・表現力がしっかり身につけているとは言えない調査結果と実態があります。

学力が、将来の児童の幸せの下支えとなることを考えますと確かな学力の定着は本校の大きな課題です。

平成31年度・令和元年度は、国語科を校内研究教科とし、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの学習過程の改善を図って、変化の激しい時代、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」を、一人一人の児童に着実につけていくことを目指します。

III 学校経営の基本方針

1 人権尊重の精神と豊かな心の育成

生命の大切さを知っていること、自分を大切にすること、自分と同じように他者を大切にすること、一人一人がかけがえのない存在として尊重されること、これらのことをしっかりと根付かせたいと考えています。いじめや体罰、差別や偏見のない人権尊重の精神に満ち、豊かな心が育っていく学校・学級づくりを目指します。

そのために、以下の点に取り組んでいきます。

(1) いじめ・不登校の根絶と生活指導の充実

子供の立場に立って愛情深く、成長のために必要な指導をしていきます。

「先生が認めてくれた、大切にしてくれた」と子供が実感できる学級経営、学校経営が問題解決の基本であると考えます。自己肯定感の高い子どもを育てるには、その子のよさをまず、認め、ほめることが大切です。問題行動の指導や不登校傾向の解決には、担任だけでなく組織的に取り組む学校づくりに力を注いでいきたいと考えています。誰が担任をしても、学校全体で知恵を出し合い、組織的に解決、改善していくしくみをさらに強化していきます。

① 特別支援夕会・生活指導夕会と特別支援全体会

問題傾向や配慮が必要なケースについては、毎週月・金の夕会の冒頭に情報交換を行います。6月・3月の特別支援全体会で全教職員が情報を共有し、共通理解と同一歩調で指導に当たります。

② 定例校内委員会・臨時校内委員会等教育相談の充実と関係機関との連携

定例校内委員会（校長、副校長、特別支援コーディネーター、4主幹、養護教諭、特別支援教室専門員）を月一回確実に実施します。また、緊急性のある課題を抱えた子どもの学級担任も加わっての臨時校内委員会も開き、具体的な対策を講じていきます。ケースによっては、SSW や子ども家庭支援センターや児童相談所、心理相談員、近隣中学校などとの連携をとりつつ、多方面からの働きかけにより問題解決を図ります。

③ 「すばる」を提出している児童について

4月中に保護者との面談をすることは必須です。保護者は、「こういうことに配慮してほしい」という思いから提出してくださっています。保護者会終了後などに、短時間でも保護者と情報交換することは、子どもの指導に生きてきます。

(2) 明るい挨拶の行き交う学校に

笑顔いっぱいの挨拶は、温かい人間関係をはぐくむ基本と考え、引き続き、高井戸第二小学校を明るい挨拶のあふれる学校にする取組を行っていきます。子どもたちが挨拶するようになるには、まず、大人が率先して笑顔の挨拶をしていきます。門が二つ、昇降口も四つある広い学校ですが、看護当番等のしくみを活用して、改めて子どもたちを笑顔で迎えることから始めたいと考えています。

また、今年度は代表委員会の取組に加え、たてわり活動でも、挨拶運動に取り組むこととなりました。今から、成果が楽しみです。

(3) 豊かな心を育成するための道徳教育の充実

道徳教育は全教育課程で実施していくものですが、その中で、週1回の道徳の時間は学級指導とは異なり、意図的計画的に道徳的心情をはぐくんでいく時間です。研修の成果を生かし、学級指導と道徳授業を混同することなく、子どもの心をたがやしていきま

す。7月30日には、区の教育指導教員（道徳）の日浦克子先生を講師として、校内研修を行います。各学年で略案を準備し、研修を深めます。

平成30年度の反省として、保護者から特別支援教育についての発信が不十分であるという指摘を受けました。9月の土曜授業、道徳授業地区公開講座では、森山 徹先生をお呼びして、保護者対象の講演会を実施し、保護者への啓発も考えています。

（4）生命の大切さを実感できる環境の整備

高井戸第二小学校には、広い校地の中に十分な広さの充実した教材園があり、教材等の栽培計画がしっかり計画されています。ビオトープもきれいになりました。環境委員会の子どもたちが、一生懸命日々の手入れに取り組んでいます。身近に生命にふれる環境を整え、命の大切さを実感できるよう、植物を育てる体験的な活動や動植物に触れる機会を大切にしていきます。学校支援本部の環境サポーターの皆様の応援もあり、環境委員会の活動が活発化しています。今後どうぞよろしくお願いたします。

2 確かな学力と体力の定着

（1）基本的な生活習慣・学習規律の徹底 ～「たかにハンドブック」を活用して～

子どもたちが楽しく学び、確かな学力を身につける前提として、学習用具の準備を整える、チャイムで着席する、話をしっかり聞く、発言のルールを守るなどの学習規律がしっかり定着していることが大切です。学習規律に関し、学級や学年でばらつきがあっては、子どもは混乱します。また、今後、若手教員の割合が増えていく現状にあっては、当たり前前のことを当たり前、全校が同一歩調で取り組むことは、学級の荒れを未然防止するために大変有効であると考えています。

「たかにハンドブック」をもとに、若手教員もベテラン教員もその他の職員も、みな同じ姿勢で子どもの指導に当たっていく仕組みを確立していきます。今年度の発行は、保護者会に間に合うことを目指しています。

（2）読書活動の推進

しっかりした学校図書館経営計画・図書館全体計画があり、学校司書が毎日図書室にいてくださる。広く明るい図書室に、新しい本がきれいにディスプレイされている。保護者ボランティアによる読み聞かせや学級文庫の選本など充実した読書活動が実施できていることは本校のよき伝統です。読書は子どもの心を耕し、確かな学力の基盤となります。昨年以上に、全校体制で読書活動の推進に取り組んでいきます。

うれしいことに、昨年度「たかにおすすめの本」が選本され、2学期から取組が始まりました。各学年の読書目標を設定し、年間を通して子どもたちの読書に対する意欲を引き出す取組を具体的にさらに進めていきたいと考えています。読書旬間の取組もさらに工夫していきますので、ご家庭でも読書に取り組んでくださることを期待します。

(3) 学習習慣の確立（家庭学習の習慣の徹底）

「生きる力」をはぐくむことを重視する理念は新しい学習指導要領にも生きています。日々の授業で学んだ、つまづきやすい内容を繰り返し反復して学ぶことは、確かな学力をはぐくむために重要です。小学校低・中学年までに学習習慣を確立することも求められています。家庭でも時間を決めて着実に学習習慣を身に付けさせてください。

(4) 体力向上への取組

29・30年度は子どもの体力が必ずしも高くない実態を受け、体力向上に向けた取組の推進をしてきた結果、少しずつですが、確かな手ごたえが数字に表れています。

せっかく2年間取り組んだことが、高二小にしっかり根付くよう、昨年作成した体育科の年間指導計画を全学年で実施していきます。また、運動の日常化には今後も取り組んでいきます。投的板の寄贈、ありがとうございました。

全校で取り組む長なわ、短なわ、マラソン等の取組もさらに工夫して効果的に実施していきます。

その他に、生活指導や学校保健委員会の活動とも関連させ、ゲームやテレビの時間を見直し、子どもたちにとって体を動かす外遊びがより魅力的になるような働きかけができないだろうかと考えています。

今年も、6月11日に「大切なすいみん講演会」を2・4年生と久我山学級の児童、そして全校の保護者対象に実施します。基本的な生活習慣の確立は、確かな体力の基盤となるものと考えます。多数のご参観お待ちしております。

(5) 小中一貫教育の推進

子どもは保護者・地域の宝です。自分のまちに誇りを持ち、未来を担うしっかりした「生きる力」をもった人間を9年間の義務教育で育てること、それが地域に根差す公立学校である高井戸第二小学校の使命です。西宮中学校を核にして本校と松庵小学校で、目指す人間像を共有し、小中一貫教育を進めていくことを推進していきます。学級経営を見直す「Q-U（楽しい学校生活を送るためのアンケート）」にはそれぞれの学校で引き続き取り組み、どの子にも居心地のよい学級づくりに努めます。

「学びをつなげ、切れ目のない教育を進める」ことを目標に三校の相互理解を深め、協力協働して地域の宝である子どもたちの育成をするため、昨年度までの課題を十分受け止め、進めていきたいと考えています。今年度は高井戸第二小学校が幹事校です。

3 教師の授業力の向上

「教師は授業で勝負する。」互いの授業力を磨きあう場を校内で充実させていきたいと考えています。教師の授業力向上は個々の教員の自覚のみに頼っては限界があります。本校の課題である若手教員の育成を契機とし、学校全体の授業力向上と、互いに学びあい高め

あう職場の活性化を目指したいと考えています。放課後のミニ研修が校内研究教科の体育から始まり、いろいろな教科に広まっていきました。うれしいことです。

また、日々の授業を充実させるために教材研究や準備を十分に行い、意図的計画的な教育課程の実施をしていきます。そのために週の指導計画（週案）等の作成が大変重要です。

（1）週の指導計画の記入と提出

必ず前の週の金曜日には作成します。

- ・ねらい、主な授業のながれ、中心活動、留意点、指導記録など適宜記入。
- ・安全面の配慮は必須記入項目です。
- ・指導に役立つ週案を作成し、よりよい授業実践に役立てます。

（2）授業改善推進プランの活用

国や都・区の学力テストの結果分析を生かし、授業改善推進プランは各自が定期的に見直します。7月31日には学力向上校内委員会とQ-U研修会が予定されています。夏季休業中に授業改善プランを作成し、具体的な授業改善につながる取組にしていきます。

（3）同僚教員から学ぶ

互いの授業を見合って学ぶことは、大変有効な方法です。専門教科等の授業やこの時間をぜひ見てほしいという場合、略案を準備し、全員に配布して、互いに授業を見合います。自己の授業力を伸ばすため、授業を参観し、よさを学びあう機会としてください。夏季休業中には、いろいろな教科の研修会を実施したいと考えています。

4 開かれた学校づくり（健康・安全・安心）の推進

（1）保護者や地域対象に、年度当初に学校経営方針を説明し、周知するとともに年度末には教育活動の報告を行って、1年間の教育活動の成果と課題を説明し、学校に対する理解と協力を得ていきたいと考えています。学校評価の結果に基づいた改善の具体的な方針を明確に示し、保護者・地域関係者・市民の学校に対する理解を深め、さらなる充実にむけて協力が得られるようにします。

（2）コミュニティスクールとして、今後も保護者や学校支援本部、町会など地域の皆様の力を借り、地域運営学校の利点を生かした学校経営を強力で推進していきます。

5 服務の厳正

私たち高井戸第二小学校の教職員は、自己の仕事に誇りと責任、熱意と喜びをもって全組織として一丸となり、目標に向かって努力する集団でありたいと考えています。子ども前で恥じるところのない社会的に尊敬され信頼される教職員になるために、まず、当たり前のことが当たり前でできることが大切だと考えています。服務の厳正について自覚をもって取り組んでいきます。